



青い空 緑の山と風
黄色のうねりは
人類の理想 文化を表わす。
それらが混然一体調和して
ロータリーの理想に向って
昂って行く姿を示している。



Weekly Report



3月19日(火)のGSEチーム歓迎 3クラブ合同例会は京王プラザホテル多摩で6時30分より開催します。登録料10,000円(各クラブ全員登録)、ビジターフィ5,000円。例会は立席で各テーブルにGSEのメンバーを囲んで3クラブの会員がバラバラになる様に、同じクラブの会員が集まらないようにとの事で交換学生が、各テーブルで通訳します。

2) 皆様のお手元に例会の時間変更についてのアンケートが配布されていると思いますが、現理事会の被選理事会の時、ガバナー訪問、クラブフォーラム等で討論しましたが、次年度に生かすためアンケートをとって見る事を理事会で決定しましたので、御協力下さいませよう、お願い致します。回答は本日例会後事務局の西川様に出して下さい。

3) 後程、親睦委員長から説明があると思いますが、萩生田会長が会長になる前からの念願で、お花見例会でゴルフに参加されない会員、奥様方に爛漫の桜の下で、是非お花見親睦パター競技大会に参加して頂いて、ワイワイガヤガヤと楽しんで頂いて親睦でクラブの和が深まりますので、御協力よろしくお願い致します。パター競技大会は次年度にも続けて行く積りです。参加費無料で入賞はもちろん全員に参加賞が出ます。

4) プロアマチャリティゴルフの案内が来ています。4月22日(月)府中カントリークラブで、各クラブ15名以上、参加できる方は回覧でまわしますので、御名前とハンディキャップを書いて下さい。宜しくお願い致します。

第261回例会報告 (3/6)

(1995年～1996年度第34回例会)

司会 SAA委員会委員 田畑 博

◎点鐘 会長 萩生田茂夫

◎国歌斉唱「君が代」

◎ロータリーソング「奉仕の理想」

◎お客様紹介 会長 萩生田茂夫

依田 正実様 (多摩青年会議所)

新倉 隆様 (多摩青年会議所・GSE派遣メンバー)

宋 珉煥様 (米山奨学生)

ソングリーダー
吉沢 洋景

◎会務報告 会長 萩生田茂夫

増強問題でこの前クラブ協議会の時に大分活発なご意見が出まして、皆様の増強に対する意気を感じておりますが、是非本年度も、未だ余すところ、4ヶ月御座いますので、皆様の御協力によってどうしてもプラスにしたいという考えでおりますので宜しくお願い致します。

◎幹事報告 幹事 橋口 洋三

1) 会員の皆様ご存じかと思いますが、確認のため、今月の例会は、次回3月13日は19日(火)の3クラブ合同例会に振替えて休会。3月20日は春分の日祭日で休会。多摩グリーンロータリークラブだけの例会は今月3月27日、夜間例会で、ここ多摩そごう例会場で行います。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会長: 萩生田茂夫 副委員長: 吉尾善太郎 山崎 光一
幹事: 橋口 洋三 委員: 平野行廣・飯島裕美・根本泰守
会報委員長: 小城 章員 関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿
例会場: 多摩そごう7F パンケットルーム

事務局: 東京都多摩市落合1-9-1
多摩センタービル7階
TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

委員会報告

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会委員 坂田 育男

萩生田茂夫：お客様ようこそ。

橋口 洋三：本日、例会後、臨時理事会を開きます。役員、理事の方出席よろしくお願ひします。

足立潤三郎：先週は、誕生日祝いをありがとうございます。ありがとうございました。

赤尾 恭雄：新倉さん、GSE合格おめでとうございませう。来日メンバーと親交を深めて下さい。

伊藤 英也：下手な卓話を聞いてもらいますので。

中山 恒武：やっと春らしくなって来ましたね。

杉山 英巳：春の日の長く続きますことを願って。

須藤 起雄：誕生日祝いをありがとうございます。妻は2月29日生まれです。

わんぱくクラブ：いつも、のこりです。

本日合計 金19,000円 本年度累計 金877,611円

◎出席報告 出席委員会委員 菊池 敏

会員総数	54名(1名出席免除者)
出席者数	37名
本日出席率	69.81%
2/21出席率	88.68%

■欠席届出者 13名

大松 誠二 藤本 吉文 平野 行廣

伊神 稔 伊東 巖 加藤喜三郎

風間 茂穂 小林 和夫 奥木 博勝

関岡 俊二 新海源四郎 城倉 正博

田中 實

■欠席者 2名

戸田 昭寿 臼井 博

◎ロータリー豆知識 横倉 舜三

情報委員会です。今日の豆知識は、ロータリーの広報の目的という事で御座います。広報というのは広く知らせるという事ですから、特にロータリーは綱領とプログラム、これを理解をして頂いたり認識をして頂いてこれを、応用して行こうという事になるわけです。プログラムですけれど、広く知らせる事ですから、昔でしたら地域社会も非常に狭かったので、自然にこちらから情報をこう

とっていたわけですが、今はこれだけの地域社会が複雑になって参りますと、やっぱり知らせないと分からない訳です。幾らロータリーが立派な事やっけていてもやったら或る程度知らせて行かなければいけないという事で、広報の目的を達することになります。

◎ロータリー財団委員会 委員長 吉沢 洋景

先日日曜日に、財団留学生の面接に行つて参りました。朝から缶詰で大変な思いをしたのですが、19名の応募と面接をしましてそのうち6名を、選出致しました。初めてでございますけど、ロータリーの広報の話これにも関係すると思ひますが、ロータリーの皆様の寄付による財団、これによる奨学金が出るわけですが、応募された殆どの方がロータリーがどういふクラブかをご存じないという現実、更にちょっと悲しくなるのは、助成金によって留学をされて来る。それに対してロータリーに対してどんなお返しができますかという質問もあつたのですが、それに対して何かお返ししなけりゃいけないのかと意外な顔を皆様されるのです。恩着せがましい言い方はしてないのですが、その辺が理解されていないんじゃないかという事で、今後の工夫が必要じゃないかと皆で話し合つて来ました。

◎GSE委員会 委員 赤尾 恭雄

当クラブ推薦の新倉 隆様が来年度派遣メンバーの中に入りました。来年度のメンバー全部決まりました。御紹介致します。

(派遣チームメンバー)

水谷 弘(リーダー) 専修大学教授 東京狛江RC

鷗池 徹(33歳) 佐賀銀行 山の手RC

新倉 隆(32歳)(有)新倉興産 多摩グリーンRC

神藤臣元(27歳)(株)コム設計 荏原RC

新谷州美(27歳) 山本動物病院 八王子南RC

◎多摩青年会議所 ワンパク相撲実行委員会

与田 政美様

第1回ワンパク相撲多摩場所開催に際して御協力のお願ひについてというお話がありました。

【卓 話】

「戦後漫画の流れ」

株式会社ブックセンターいとう 代表取締役 伊藤 英也



漫画黄金時代と言われていますが、世界中どこを探しても日本ほど盛んに漫画が読まれている国はないようです。例えばアメリカを見てみると、コミックと言えば子供と一部とマニアのものであり、大人の為の漫画は新聞や雑誌に掲載されるひとコマ漫画くらいのものだということです。

一方、日本は40～50代の中年男性が、人目をはばかることなくビックコミックの漫画雑誌を読み、また「ゴルゴ13」を20年間欠かさず愛読しているというような管理職サラリーマンがゴロゴロ居る状況です。これが世界に冠なる超漫画大国、日本のようです。

このような漫画大国はどのようにして出来てきたのか、ここで戦後の漫画の流れを見て見ましょう。戦後もっとも大衆的だったのは、四コマ漫画のようです。長谷川町子の生涯の傑作「サザエさん」もそのひとつです。「サザエさん」の登場人物、サザエ・カツオ・ワカメなどの名が、海から生まれたというのは皆さんよくご存じの有名な話です。作者、長谷川町子は疎開先の福岡の家のすぐ裏が海であった為、妹と砂浜に寝ころびながら漫画の骨組を考えていました。それで、登場人物名は皆海産物の中から選んでつけられたということです。

漫画「サザエさん」は、昭和21年4月から夕刊「フクニチ」で連載が始まりました。その後、昭和23年12月から朝日新聞の夕刊に移り、さらに昭和26年4月より同紙の朝刊に移って、昭和43年2月19日で5000回を飾りました。そして昭和49年3月、作者の病気の為中断し、そのまま第6477回で終了しました。

新聞の連載漫画は長期にわたるものが多いようで、「サザエさん」のように5000回突破の記録をもつ作品は、秋好馨の「轟先生」、横山隆一の「フクちゃん」、加藤芳郎の

「まっぴら君」、サトウサンペイの「フジ三太郎」などがあり、これらは、毎日掲載してもザラに20年分はあるそうです。

こうして新聞の四コマ漫画は、読者の生活に密着しました。各新聞でこのような漫画を掲載していないものは今はもう少ないようです。このようにして四コマ漫画は、戦後漫画の一つの柱になったようです。

戦争が終わってしばらくの間は、四コマ漫画には、復員や配給、アメリカ兵やデモ、そして婦人が外に出かけ始めたことなどが主に描かれました。そこには世相がきちんと反映されており、実際の生活が四コマ漫画の生活にも入っていたと言えるでしょう。このようにして、漫画家の日常や興味がそのまま読者の日常や興味と重なってくるのでした。

その時代のニュースや出来事もまた、四コマ漫画の生活に入ってきました。一つの例として、「サザエさん」の連載が始まった昭和21年頃の内容を見てみましょう。

「サザエさん」第一巻には、引揚げ（4回）、占領軍（4回）、買い出し（4回）、家庭菜園（3回）、伝染病（2回）、配給（2回）、代用食、燃料不足、闇市場、郵便値上げ、男女同権討論会、警察民主化、復員兵、戦災孤児、台風対策、教師批判、家畜などの内容がとりあげられています。この一冊に入っている「サザエさん」78回のうち、社会的事件のあらわれる作品は33回で全体の41%になります。確かに、その時代の出来事がかなりの割合で反映されています。

尚、長谷川町子は、平成4年5月27日に72歳で亡くなりました。国民栄誉賞を受賞しております。

手塚治虫もまた、漫画黄金時代を築いた人物の一人です。8月15日の天皇の放送は聞き流したものの、近所の人達の話す「戦争は終わったんですって。」という声で「もしかしたら漫画家になれるかもしれんぞ」と思った少年です。

この少年は学徒動員で配属された軍需工場で働きながら、暇を見つけては漫画を描き、教官や配属将校に見つかっては、非国民と殴られたりしながらも、漫画にしがみついていたのです。終戦後、少年は、焼跡の中でセキを切った川の水のように漫画を描きまくり、焼跡の子供たちの荒れた生活を潤していきました。

昭和21年、手塚治虫の最初の連載「アマチャンの日記帳」は「毎日小学生新聞」に掲載されました。この作品は四コマ漫画でした。

翌22年には、酒井七馬原作の「新宝島」という作品を育英出版から出しました。これが手塚治虫の赤本猫（書き下ろしの漫画本）の始まりです。これは、40万部も売れる大ヒットとなりました。実は、この「新宝島」の前に「キングコング」という書き下ろしがあったのですが、都合でオクラになっていました。しかし、「新宝島」があまりに売れるということで、不二書房がこれの出版に踏み切ったほどです。

このように、第1作が第2作になってしまったわけですが、再版だけでも10万部近くも売れ、現稿料は買切で八千円も貰ったそうです。（当時、大学卒の初任給が315円。）

昭和22年4月に「新宝島」を出版してから、昭和28年11月出版の「罪と罰」に至るまで、赤本描きの単行本は34冊にも上っています。

赤本描きと並行して、雑誌の連載も始まっており、昭和25年10月から、「漫画少年」に掲載された「ジャングル大帝」が初舞台でした。翌年4月には「アトム大使」が「少年」に、「サボテン君」が「冒険王」にと4本の連載を抱えていました。さらに昭和27年4月には「鉄腕アトム」の連載が「少年」で始まりました。

同時期には、山川惣治や小松崎茂などの絵物語作家が活躍し、戦前の少年少女を視覚的に再生していきました。昭和20年代後半から30年代前半、月刊誌が隆盛をきわめた後、昭和34年には少年週刊誌が創刊されました。

その数年前、大阪にあった日の丸文庫が「影」という雑誌を創刊しました。そこに集まった、さいとうたかを、佐藤まさあき、辰巳よしひろらが劇画というリアルな表現による実録的な漫画を発表していました。

のちに、劇画は東京の雑誌にも進出し、劇画ブームは昭和40年頃にピークを迎えます。「忍者武芸帳」や「カムイ伝」の作者、白土三平や「墓場の鬼太郎」の水木しげるも、こうした動きに身をおいて活動を開始していきました。以降、劇画は漫画の主流とさえなっていき、こうした漫画、劇画ブームは、青年誌やマニア誌の創刊を促しました。

一方、少女漫画は、昭和45年頃になると、それまでとは異なった新しいタイプの作品が新鋭の少女漫画家によって生み出されていきました。萩尾望都、竹宮恵子、樹村みのり、山岸涼子、大島弓子らの諸作品、「ポーの一族」「風と木の詩」「日出処の天子」「綿の国星」などが、少女たちの繊細な感性を揺さぶっていきました。

また、過激なセックス描写を売り物にしたエロ劇画は昭

和55年頃の漫画シーンを彩りました。

このように表現の特異性をピックアップすると、「四コマ漫画」「手塚治虫のストーリー漫画」「劇画」「少女漫画」「グルメ漫画、レディースコミック」と言うように、10年毎に区切られているようです。

いずれにせよ、大ざっぱには10年単位で戦後漫画はその表現と体質を変化させてきたと考えられる訳ですが、特に昭和45年以降は漫画文化自体が世間に認知されるようになり、多くの出版社がこの世界に参入するようになりました。

こうして雑誌数が増え、漫画家の数も急増して今日の漫画黄金時代が築かれたのであります。

（今週の担当：根本 泰守）

ポリオ・プラス計画は今

世界保健の日

～ポリオのない世界を夢みて～

ナイジェリアのポートハーコート南RCの会員も、「世界保健の日」を記念して、地元の家族保健センターで乳児たちにワクチンを与えるのに協力しました。ナイジェリアのロータリアンは、この国でポリオ・プラスを実施するために多くの困難を——貧弱な社会の基幹施設、社会の広範囲に及んでいる貧困、不安定な政府といった難題を克服しなくてはなりません。このことについて、ポートハーコート南RCの1994～95年度会長トム・ソグレス氏は、こう語っています。

「この努力を通じて私たちは、地元の人たちを援助して、従来とは違った地域社会をつくりだしているのだということを知りました」

ナイジェリアでは数多くのロータリアンが村や保健センターを「自分たちのもの」とし、ポリオ・プラスを実施するのに最も重要な人手や、ワクチンの輸送と保管に必要なコールドチェーン設備などを提供しました。

「ロータリーの友」1月号より抜粋

4月以降の例会（含例会場の変更）

- 4月3日（水）…夜間婦人同伴花見例会
（於）東京国際CC・クラブハウス
- 10日（水）…通常例会（於）京王プラザホテル多摩
- 17日（水）…通常例会（於）京王プラザホテル多摩
- 24日（水）…夜間例会（於）京王プラザホテル多摩
- 5月1日（水）…定款による休会
- 8日（水）…通常例会（於）多摩そごう例会場
- 15日（水）…通常例会（於）多摩そごう例会場
- 22日（水）…通常例会（於）京王プラザホテル多摩
- 29日（水）…夜間例会（於）多摩そごう例会場
- 6月5日（水）…通常例会（於）多摩そごう例会場
- 12日（水）…通常例会（於）多摩そごう例会場
- 19日（水）…通常例会（於）京王プラザホテル多摩
- 26日（水）…夫人同伴最終例会
（於）京王プラザホテル多摩